

# 電力コンポーネント事業の グローバル展開について

Global expansion of the power component business

滝本 真人\*  
M. Takimoto

浅成 隆治\*  
R. Asanari

## 概 要

70～80年代にかけて工事込みの変電所案件や電力コンポーネントの輸出を日本の商社と共に東南アジア、中近東、南米ほかに展開してきた。しかし、その後、韓国勢や現地工事業者の台頭や円高基調もあり、特に工事込み案件他の海外での価格競争が激化した。87年のタイへの進出を契機に台湾への事業展開を経て国産奨励の中国で94年以降GIS、変成器、コンデンサの事業を展開。本年も中国に分路リアクトルの会社を設立するなど海外生産への展開が活発になってきた。ここでは電力コンポーネント事業のグローバル展開について解説する。

## Synopsis

In 1970<sup>th</sup> and 1980<sup>th</sup> we had been expand our turnkey and component export business of T&D together with Japanese trading firms in the overseas countries such as South-East Asia, Middle East, South America etc.

However, due to rise of Korean companies and national contractors and high appreciation of Japanese Yen price competition of the turn-key contract and component export business became very tough. With onset of operation start in Thailand in 1987, after business expansion in Taiwan we have been expanding manufacturing operation of GIS, Instrument Transformers, Capacitors afterwards 1994 in China who promote domestic products. Expansion of overseas production has been so vigorous that company of Shunt Reactors was established in China this year.

This paper describes the global expansion of our power component business.

## 1. 電力コンポーネント事業の世界の趨勢と当社の取り組み

電力コンポーネント(受変電機器)の事業については、設備産業の宿命ゆえ、日欧米の先進国においてはその社会が成熟するにつれ、国内市場は急激に縮小してきた。これに呼応すべく欧米においては大規模な企業の合従連衡が行われ、巨大企業が市場を支配する構図になってきている。もちろんわが国においても同様の動きである。

図1にその例をしめす。ここでは当社の事業の関係の深いT&D分野、変成器分野、電力用コンデンサ分野の再編構造を示す。

一方新興国においては、現在電力インフラの急整備が行われており、この市場は急拡大している。この状況に対応するため世界の巨大企業は新興国における拠点戦

略を進めてきた。もちろんこれらの国においては先進国からの技術導入を含め、国産化の勢いも大いなるものがある。したがってこれらの新興市場における技術・価格競争はますます熾烈な様相を帯びてきている。

当社においても、過去70年代～80年代においてはターンキーシステムとして従来型変電所を東南アジア、中東、南米において展開してきた実績はあるのであるが、市場の変化に対応して競争力あるコンポーネント(コンデンサ、変成器、GIS)を中心に87年からタイ、台湾へ、そして94年以降電力機器の需要が急増してきた中国での現地生産へと進出し、OUT-IN、当該国内市場展開を進めてきた。これらの状況は後述の各事業の論文で詳述する。

\*グローバル事業本部

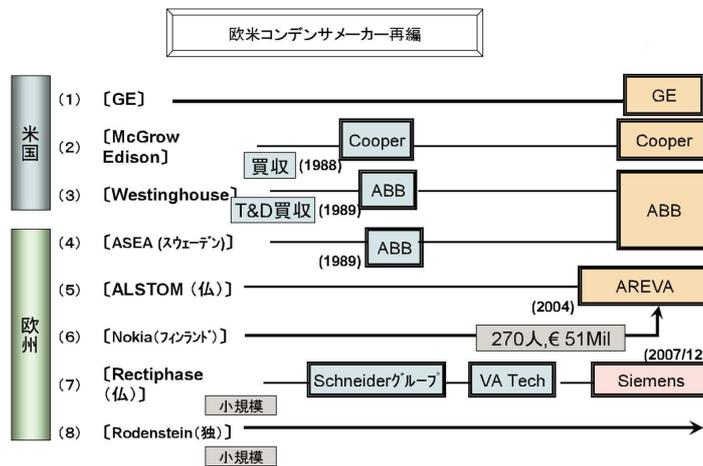
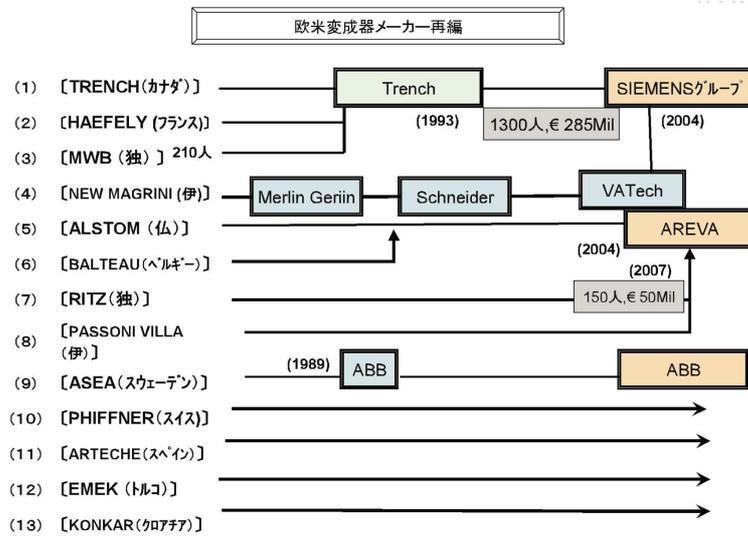
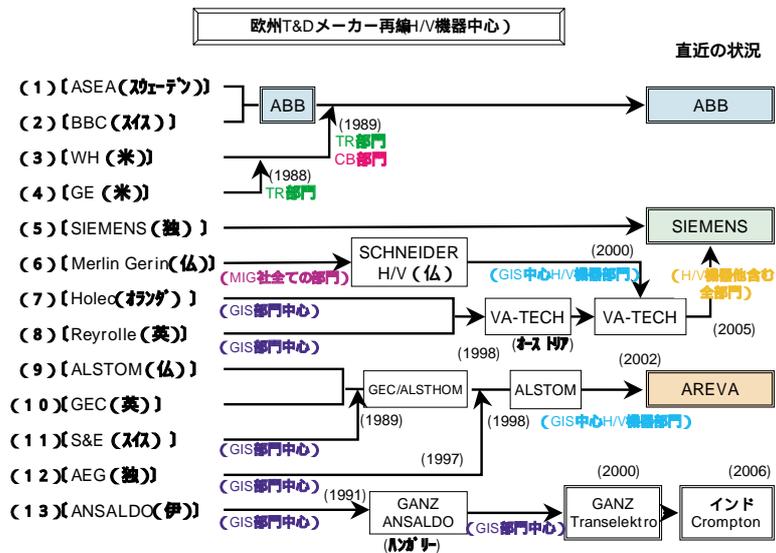


図1 海外での合従連衡構図

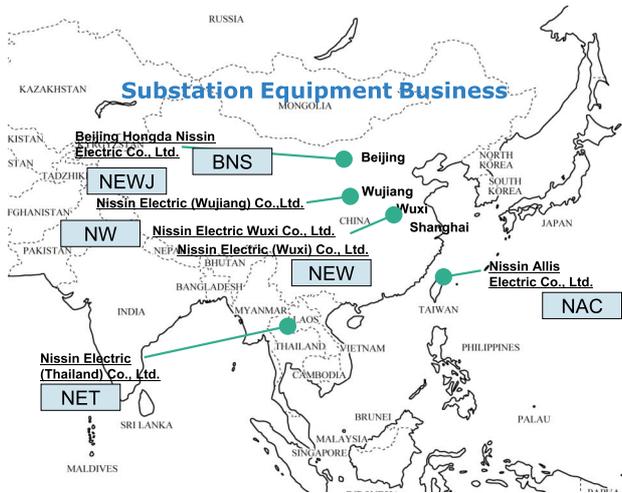


図 2

## 2. 当社のグローバル展開とその状況

図 2 にアジア地区電力コンポーネント製造の当社の関連会社の拠点を表す。特に電力需要が急成長している中国での現地生産に注力してきた。

これらの企業の概要について表 1 に示す。

## 3. 課題と対応

### 3.1 拠点展開

今後の世界的な状況を考えて、現状の中国中心の事業展開から抜け出して既に他の事業で進出したインドやベトナムでの展開、更には中央アジア地区や欧州まで含めた変電機器の事業の拠点展開を選択肢の一つとして検討してゆきたい。

### 3.2 技術革新とブランドの構築

海外子会社製品も日本製と同様に競争力が求められる。例えば、変成器は80年代なら欧州やカナダ製という一流製品との競合だけだったが、90年代半ばより電圧によりスペイン、トルコやインドの低コスト製品と比較され日本製品の優位性が失われてきた。したがって、本体の技術部門と連携して、常に技術革新を怠らずに、開発力を研ぎ澄ますことが重要と考える。

「常に技術をリフレッシュし続け、お客様の期待にこたえること」これが「信頼のNISSIN」の世界的なブランド構築になるものと確信している。

### 3.3 Out-Outの展開

現状は進出先の需要への対応が中心となっているが、中期的には東南アジア、中東他へ輸出ができるような体制を整えることが求められる。

現在のところ、中国製品を受け入れる海外電力会社はそれほど多くないが、当社子会社製品に「信頼」の二文字を根付かせることにより、海外拠点からの輸出事業モデルを推進してゆきたいと考えている。特に地理的にも東南アジアを皮切りにこの「Out-Out」戦略を実行したい。

表 1

会社名(略称)	設立年度	所在地	従業員数	売上高(07年度)	業容
NET	1987年	タイ国バトムタニ県	約600名	753百万タイバーツ	電力用コンデンサ/バスダクト製造、薄膜コーティングサービス、電気機器部品加工
NAC	1991年	台湾桃園県	約60名	554百万NT\$	GIS製造
NW	2004年	中国江蘇省無錫市	約600名	541百万円	電力用コンデンサ/コンデンサ型計器用変圧器製造
BNS	2001年	中国北京市	約150名	323百万円	GIS製造
NEW	2002年	中国江蘇省無錫市	約150名	118百万円	計器用変流器/ガス絶縁式計器用変圧器製造、薄膜コーティングサービス
NEWJ	2008年	中国江蘇省呉江市		08年末操業予定	分路ロアクトル製造

## 3.4 コンポーネントからシステムへ

当社が保有する特有の技術である系統安定化技術を海外で活かすことや弱みの部分をM&Aで補完することも視野に入れて展開したい。

また、コンポーネント事業だけでなく、80年代に実施していたターンキーのビジネスが東南アジアを中心に活発になる様に、エンジニアリングの強化や工事体制の整備も実施する様にしたい。

この変電所システムの分野もグローバルスタンダードの潮流に合致した取り組みが肝要であると認識している。

## 4. まとめ

コンポーネント事業は中国を中心に海外事業展開も盛んになって全社業績に大いに貢献し、海外子会社のプレゼンスが上がってきた。

これからも製造各部門と連携を図り、グローバルな最適地生産を考えてゆく必要がある。

この分野の事業は今後ますます海外分野の比重が高くなることは疑う余地は無い。当社にとってもこの分野の海外事業の発展が中期計画達成の鍵であると肝に銘じて邁進する所存である。

---

執筆者紹介

---



**滝本真人** Makoto Takimoto  
グローバル事業本部  
海外事業部  
営業部長



**浅成隆治** Ryuji Asanari  
グローバル事業本部  
海外事業部長